本土決戦に向けて

昭和20年5月、軍が沖縄から撤退すると、本土決戦に向けた最終臨時動員が実施されることになりました。

沖縄の次に本土決戦の場となるのが九州。米軍はオリンピック作戦と銘打ち、昭和20年11月に九州侵攻を計画していました。

九州北部では、米軍襲来予想地を、関門、糸島、唐津、佐世保とし、福間・芦屋海岸が主決戦場（福間会戦）になると想定。決戦に向けた準備を進めました。

●第三一二師団 西部糸島半島配備

軍は、襲来予定地を5区分し、糸島半島から伊万里までの範囲を第三一二師団が防衛することになりました。

作戦計画の方針は次のとおりです。

「師団ハ有力ナル一部ヲ以テ西部糸島半島付近ノ要地ヲ占領シ、上陸スル敵ヲ水辺ニ撃滅シ、主力ヲ以テ唐津、伊万里方面ノ要地ヲ占領シ、上陸スル敵ヲ水辺ニ撃滅スルト共ニ敵ノ舟艇基地設定企図ヲ破摧（ハサイ）シ、軍主力ノ作戦ヲ容易ナラシム。糸島半島及ビ唐津湾沿岸方面ニ於テハ主陣地ヲ水際ニ近ク占領シ、火力及ビ肉功威力ヲ統合発揮シテ敵ヲ水辺ニ撃滅シ、松浦半島以西ノ地区ニ於テハ（以下略）」

●前原地区隊と糸島配備

第三一二師団は、総勢1万1866人。敵の上陸阻止という水際作戦であり、前原地区隊の主要陣地の構築は、彦山（志摩野北）から、幣ノ浜（にぎのはま）（志摩小金丸）、竹の越西側斜面（志摩岐志・芥屋）を結ぶ線でした。

当時の資料はあまり残っておらず、聞き取りなどから類推すると、市内には4000人以上の兵員が配備されていた模様です。

前原地区隊は、歩兵第三五九連隊本部を志摩稲留の蓮照寺に置いたとされ、本堂裏山の壕（ごう）に軍旗が納められました。また、志摩師吉には、海軍部隊のほか野戦病院を配置したとされます。

近隣の民家や寺院を宿舎などに利用し、農家の敷地内には数門の野戦銃砲も持ち込まれました。当時、兵員たちは盛んに手旗信号の訓練をしていたそうです。

志摩小金丸の幣ノ浜には塹壕（ざんごう）が掘られ、志摩吉田を予備陣地にしました。また、志摩野北の彦山中腹では、砲台（高射砲と思われる）設置のための測量が進められていました。

志摩芥屋の立石山にも2門の火砲配置（15㎝カノン砲と思われる）の準備が進められていたと思われます。

各村の国民学校（小学校）は、兵員の宿舎となり、子どもたちは臨時に設置された神社や松原の分教場で授業を受けていました。

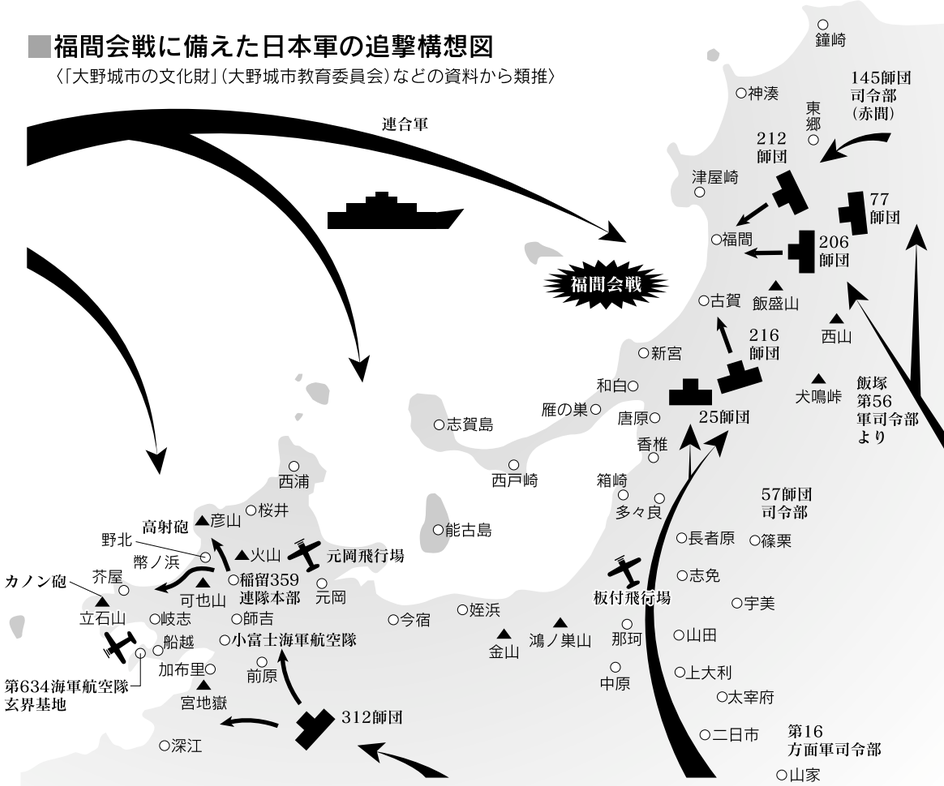
二丈深江の海岸にも主陣地が置かれ、大入付近にも戦闘員が配置されました。そのほか宮地嶽（加布里）にも予備陣地が置かれ、雷山のふもとにも海上艇進戦隊の予備陣地が置かれました。

このように西部糸島半島に配備された戦力は相当な規模のものでしたが、短期間での配備であり、資料もあまり残っていないため、詳しいことは分かりません。

本土決戦を目前にした8月15日に終戦を迎え、幸いにして糸島での地上戦は行われませんでした。しかし沖縄戦のような住民を巻き込んだ戦闘が、この糸島において行われる一歩手前のところまで来ていました。

■福間会戦に備えた日本軍の追撃構想図

〈「大野城市の文化財」（大野城市教育委員会）などの資料から類推〉



追悼し、過去から学ぶ

●恒久平和を願う サイレンの吹鳴

市では、戦没者や原爆死没者のご冥福と世界の恒久平和を願って、広島と長崎に原爆が投下された日時、また、終戦記念日の正午にサイレンを鳴らします。

みなさんも、先の戦争で亡くなられた人たちをしのび、世界の恒久平和を願って、サイレンに合わせて黙とうをお願いします。

7月9日に行われた、戦没者慰霊追悼式。戦争の終結から65年が経過し、遺族のみなさんの高齢化が進んできました。今の発展と平和は、失われた尊い命が礎となっています。戦争の記憶を風化させず、次世代に伝えていくことが求められます。

サイレン吹鳴日時

①8月6日（金）8時15分
……広島原爆投下日時
②8月9日（月）11時2分
……長崎原爆投下日時
③8月15日（日）12時
……終戦の日

サイレンの問い合わせ

糸島市総務課
☎（332）2100

●大戦の記憶～海軍航空隊玄界基地展

志摩歴史資料館夏季企画展

第二次世界大戦末期、最大の秘匿航空基地といわれる「第六三四海軍航空隊・玄界基地」が船越湾沿岸にありました。

基地は集落に同居する形で開設され、今も志摩船越や二丈松末にその遺構が残っています。

企画展では糸島に残る戦争遺構を紹介するとともに大戦での遺品を展示し、戦争の悲惨さと平和の尊さを後世に伝えます。

開催期間 8月22日（日）まで

企画展の問い合わせ

伊都国歴史博物館
☎（322）7083

●町史（誌）の販売

市では、合併前に発刊された町史（誌）の販売を行っています。今回の記事も、町史（誌）を基に作成。知らなかった糸島のことが分かります。

販売書籍

①志摩町史（2009年刊）
上製本・箱付4800円
②二丈町誌（2005年刊）
上製本・箱付3000円

※前原町誌は、発刊時期が早かったため、在庫がありません。

町史（誌）の問い合わせ

糸島市情報政策課
☎（332）2063

私の戦争体験 福岡大空襲

昭和20年6月19日 B29が福岡を襲来

鎌田 岩雄さん（86歳／前原北）

当時、師範学校の学生だった私は、20歳になると召集され、福岡陸軍歩兵部隊に配属されました。

配属されて3日目の夜のこと、空襲警報のサイレンで起こされ、近くの松林に掘られた、人ひとりが入れる塹壕（別名タコツボ）に避難しました。

上空を照らすライトにB29が浮かび、高射砲で弾幕を張りますが、弾が届きません。間もなく雷のような音が轟き、焼夷弾（だん）が降ってきました。焼夷弾は、地上50ｍほどで大きな束が拡散し、広範囲に油をまき散らしながら落ちてくる兵器です。

隣の兵士は、焼夷弾の直撃を受けて亡くなりました。周囲は火の海となり、タコツボの中に身を潜めても、服に火が付く状態。死を覚悟しました。

松林に火が付き、上官の命令で大濠公園の池に避難。途中、数人が焼夷弾の直撃を受けました。上空は赤く染まり、池に映し出されていました。空襲は朝まで続き、多くの人が亡くなりました。

戦中・戦後を語り継ぐ

北新地での取り組み

北新地自治会と老人クラブでは毎年、戦争体験者の発表を行い、子どもたちに当時の様子を語り継ぐ取り組みを行っています。

徴兵で外地に出た人や当時の糸島の様子、雷山空襲など、平和や人権のたいせつさを子どもたちに伝えています。

子どもたちは、平和のたいせつさを知り、また、世代間の交流も進められています。

今年は8月1日（日）に開催